A-1「生態系」環境教育プログラム 「Dr.フォレストからの手紙」

講義担当:積水ハウス株式会社

講座対象者	□小学校低学年 □小学校中学年 ■小学校高学年 □放課後施設利用児童 □中学生 □高校生 □大学生 □地域一般
授業活用例	小学校4・5・6年生「理科:生物と環境」
関連のある SDGsのゴール	11,13,14,15
対応可能曜日	■平日 □休日 □その他(曜日)
対応時間	9時~17時
年間実施上限数	3回(日程が合えば3回を超えても開催できる場合があります。)
講座実施方法 ※()は場所等	■講義(パソコン、プロジェクターが利用できる教室、会議室など)□ワークショップ(■自然体験(学校の校庭)
講座所要時間	90分(講座45分、自然体験45分)※教員による事前授業(45分)の実施が必要です。
実施条件、 必要な準備等	・プロジェクターまたは TV モニターの準備をお願いいたします。(パソコンは要相談) ・講座実施前に、ガイドに沿って教員による事前授業を取り組んでいただきます。 ・クラス単位ではなく、学年単位での実施となります。

講座内容

1) 目的

積水ハウスでは、住宅の庭や街づくりを考えるとき、その地域に昔からある在来の植物を植えることを「5 本の 樹」計画として提案し、地域の自然環境・生態系に貢献しながら生活を豊かにできるということをメッセージと して伝えています。本プログラムは、子どもたちが緑と生き物の関わりを理解し、自らの自然環境への関わりが 地域や地球環境全体の保全に繋がることを考え、行動を促す"体験思考型"環境教育プログラムです。

2)特徴/狙い

- ●生き物は互いに関わりあって生きていること、地球には多様な生き物が必要であることを理解する (関係性を理解する力)。
- ●校庭などの身近な自然環境での観察(フィールドワーク)を通して、植物にはさまざまな形態や生態が あることを理解し、観察の方法や視点について知る(観察する力・観察した内容をもとに判断する力)。
- ●体験思考型のプログラムを通して、生き物同士の関わりや、生きていくための工夫などを推論したり、 関連づけて考えたりすることができる(推論する力・関連づけて考える力)。
- ●生き物の特徴を知り、生き物同士の関わりを考える中で得た知識をもとに、生き物が生きていきやす い自然環境やそれをつくるための方法について考えようとする(関連づけて考える力)。

3)概要

- ●教員による授業①(45分):ミッション 生き物同士の関わりのしくみを解明せよ!
- ・クイズやグループワークを通して、生き物同士の関わり(生態系、食物連鎖、生き物が住みやすい自然環境)に ついて推測し、関連づけながら、仮説を立てる。
- ・仮説を立て、理由を考えることを通して、自分なりの考えをもつ。
- ●講師による授業②(90分):校庭の木を研究しよう(講座+自然体験)
- ・授業①で作業したクイズやワークの答えを講師(Dr.フォレスト)が解説。 ・クイズやワークの解説を通して、生き物は互いに関わりあって生きている
- ことや、地球には多様な生き物が必要であることを理解する。 ・フィールドワークは、講師からのアドバイスをもとに植物の観察方法や視
- 点を得る。
- ・授業や体験で得た知識や生き物の見方、自然環境への考え方を使い、生活に応用する方法について考える。
- ※詳細はティーチャーズガイドをご参照ください。以下よりダウンロードいただけますと幸いです。 https://sekisuihouse-ltd.box.com/s/g0ghcxnlsyh43zxaj7mnzlj5flvr8h2i



